

さあ、はじめよう！

心はずむ 生活科へ

「学びに向かう力」を引き出す
生活科授業



／先生にも／／子どもにも／

心地のいい授業デザイン

子どもと一緒に授業をつくろう



#ストーリー #振り返り #個々の気づき #協働的な学習

ストーリーのある授業づくり

喜名 「生活科で引き出す力」の一番の特徴は、他の教科に比べて**知識・技能が「見えにくいこと」**です。私たち教師は「教えないといけない。」という思いが強いからこそ、どう授業していいかわからなくなりがちです。**子どもの思いや願いを実現するための授業づくり**に、もう一度立ち返らなければならないと思います。

根本 生活科授業で大切なのは、子どもの意識や思考の流れ、思いや願いがどう変わっていくのかを、**子どもの姿を見たり話を聞いたりして見取っていく**ことですね。

齊藤 子ども一人一人の話を聞きながら、どのように興味関心を高めていくのか、また全体として活動のゴールを持たせていくのかを考えるのは難しいですね。でも、だからこそ学級や個人が自分なりのストーリーをつくるのが生活科の授業だと思います。

宮崎 そう、**学級や個々に自分なりのストーリー**があるのが大切ですね。結果だけを見るのは意味が

ないですから。プラスでもマイナスでも感動が生まれるのは、語りたいストーリーがあるからこそです。

喜名 その**ストーリーって、実は見通しなんです**。子どもは最初から予測を立てて、うまくいかなければその場で自己調整をしています。でも、子どもは自分が自己調整をしていることに気付かない。だから、子ども自身が気付けるように振り返りをするんです。

つけたいのは「振り返る力」

喜名 最初は先生が振り返りを促すんだけど、低学年で鍛えていきたいのは、**「自分で振り返りができる力」**です。振り返りをするときに、他者がどう関わったのかを意識させるといいです。振り返りの視点が広がるし、自分の変容がわかると思うんです。

宮崎 他者との関わりは一人で考えていても気がつきにくいから、個々の気づきを学級に共有することが先生の役割として必要ですね。「今の発言どういうこと？」と、もう一回発言させたり、「わからないから教えて。」と、他の子どもに代弁させたりする

宮崎倉太郎先生

武蔵野市立境南小学校校長

東京都の公立小学校教員、校長、教育委員会の要職を経て、現職。生活・総合の推進に努め、2021年より全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 会長。

根本裕美先生

日本女子大学講師

東京都の公立小学校教員として、生活科創設以来、授業法を研究し、生活科指導教諭として「スタートカリキュラム」の指導法を推進。2022年より現職。

と、先生にはわからないことでも子どもたちは不思議と自然にできるんです。

根本 先生がすべてわかっていなくてもいいんですよ。先生も子どもと一緒に学んでいけるように、関わりあっていけるといいですね。

齊藤 子どもたちだけでなく、先生どうして子どもの学びに向き合う関係をつくることも大切かもしれません。

根本 そうですね。なんのために振り返りをやっているか、目的を見失わないようにしたいですね。形式的にならず、理由や目的が説明できるように考える必要があります。

齊藤 子どものカードを複数の先生がそれぞれに意味付け・価値付けを示してもいいですよ。複数の先生の意見が同じになる場合もあれば異なる場合もある。そのようなズレがあることで、子どもの豊かな学びを見取る先生の力量を高め、子どもを見取る視点を増やすんです。先生自身も、そのような事例をためていくことで、自分がどのような意味付けを行い、どのような支援へとつなげたのかを簡単に振り返ることができます。

喜名 先生も子どもも、それぞれが個別の**気付きをみんなで共有して振り返っていく**ことが、一人一人の個性を生かし、他者と協働する、**「協働的な学習」の価値**になるんだと思いますね。

幼児期から子どもが育んできた学びを生かす

根本 それぞれの子どもたちのストーリーを見取る

ときに、**幼児期の経験が土台**となりますよね。そのときに取り入れてほしいのが**「スタートカリキュラム」**です。幼児期の遊びや生活で学んだことを生かして、学校生活や授業をつくるためのカリキュラムのことです。

齊藤 入学してすぐに「さあ、一時間目は国語ですよ。」としない授業のことですね。

根本 15分ずつなど、各教科を組み合わせで作っていきます。「スタートカリキュラム」をつくることで、自分の子ども観が変わる先生も多いですよ。「子どもってこんなこともできるんだ。」と、子どもたちへの接し方が変わる先生もいます。子どもたちにとっても、「これから学びはじめるスタート」になるからこそ、大切にしたいですよ。

喜名 先生たちや学校にとっても、**「カリキュラムマネジメント」の「スタート」**なんですよ。

根本 保護者も子どもも幼児期の経験を学校や先生が受け入れてくれることで安心感を覚えますよね。学校の特性やそれまでの子どもの経験を生かしてカリキュラムをつくるのが、大切なんだと多くの先生に実感してほしいです。

喜名 学びはじめるスタートである生活科の学びを身につけていけば、ほかの教科の学び方も変わってきます。これから求められている、**主体的・対話的で深い学びの最たるものが生活科の学びなんです。**

次のページでは

評価や主体性について考えます



喜名朝博先生

国士館大学教授

東京都の公立小学校、東京学芸大学附属大泉小学校教員、校長、教育委員会の要職を歴任。統括校長として全国連合小学校長会 会長を経て、2022年より現職。



齊藤和貴先生

京都女子大学准教授

東京都の公立小学校、東京学芸大学附属小金井小学校教員として、子どもに寄り添う授業研究と実践を積み重ね、指導法を推進。2021年より現職。

子どもの力を信じよう



#主体性 #自己決定 #評価

学級の総合力を信じて

宮崎 生活科は、**子どもに聞く、子どもを見る**、ということが一番大切です。聞けばいろんなおもしろいことを言ってくれるのに、聞かないで先生が自分で解決しようとする、限界が来てしまいますからね。自分のクラスは自分でなんとかしなくてはいけないと思うと、追い込まれてしまうんじゃないでしょうか。

齊藤 「低学年に主体性や自己決定をゆだねるのは難しい。」と、思い込んでしまうのかもしれないね。

宮崎 私の実感としては、子どもたちにどんどんゆだねたり聞いたりすると、先生たちの肩の力が抜けてくるんですよね。先生が教えようとしなくても子どもたちが自発的に取り組もうとする、そんな**幼児教育の発想に近い学習サイクル**をつくるのが大切なんだと思います。

齊藤 子どもたちに考えを聞きすぎて、「まとめられないのではないか。」と、先生が心配してしまう部分もあるかもしれませんが、それも先生だけで子どもたちの意見をすべてまとめようと思ってしまっているからです。たくさんの考えが子どもたちから出

子どもたちは
生活科が大好きです



子どもの力を
信じて話を
聞きたいですね



たときに、「こんなにできないよね？」とみんなで話をしていけば、子どもたちもなんとかしようと一緒になって考えてくれますよね。先生も子どもの一人という気持ちで、一緒に授業を作るんです。

宮崎 生活科は特にそうですね。**「何とかする子ども」**が大切なんです。つい、子どもたちに失敗させないことに注力してしまうけど、失敗はプロセスであって、結果じゃないんですよね。特に、生活科はトラブルが起きたことによっておもしろいことが見つかっていく教科なんです。何かを作るときも試行錯誤をしていますよね。**トラブルが起爆剤になるんです。**

齊藤 トラブルが楽しくなるわけですよね。

宮崎 **自己決定**とよく言うけど、自分たちで決めたやりたいことはやろうとするし責任も持とうとする。トラブルが起きたって、自分が主体的に取り組んだことであれば、自分のこととして必死になって考えるでしょう。資質・能力を身につけようとする**主体性を損なわないようにすることが大切だ**と思いますね。

喜名 低学年にとって、遊びってすごく大切なんですよ。**遊びは、強制されない主体的なもの**だから、

主体性や自己決定は
ブレーキをかけない
ことが大切です



そこが低学年の発達段階によく合っているんですよね。そんなふうに、低学年のうちから、自分のやりたいことをやりながら身につけていくという学び方が大切ですよ。

宮崎 幼ければ幼いほどチャレンジをするから、そこで快不快などの何かが残れば、またやりますよね。その繰り返しが大切なんです。**低学年こそ主体性や自己決定にブレーキをかけてはいけないと思います。**

喜名 生活科は他教科のように○×ではかる**正解や不正解はない**んだから、子どもも先生も安心してやってほしいですね。

根本 だから子どもたちは生活科のことが大好きです。カードにもなんでも好きなことが書けますから。

喜名 先生や保護者は「これでどんな力がつくんだろう。」と、心配になるかもしれない。でも生活科では、**一番大切である、主体性が育ちます。**

宮崎 そこでまちがいやトラブルがあっても、「どこでまちがったんだろう。」と全員で一緒に考えた方がためになります。「まちがってくれたからわかるようになったね。」と、いう雰囲気は学級の中で出てきますよね。

喜名 子どもたちに思いや願いがちゃんとあるか、それを言語化させているか、先生が把握できているかを見取るためには**学級や一人一人の子どもの力を先生が信じて、子どもたちの話をよく聞いてあげる**ことが大切だと思いますね。

評価をするのは、 次のステップに進むため

宮崎 生活科の評価は難しいと、ずっと課題になっ

ているけれど、「できているか、いないか」で見えてしまうからだと思います。生活科は他の教科よりも、個々の子どもたちのよさや好みを生かして、さらにそれを伸ばすという意味合いが強いと思います。

喜名 本来は学習評価の意味合いは、子どもの実態を分析してその後につなげていくことなんです。**評価と指導は一体化**しているんですよ。意欲を評価したあと、「それを高めるにはどう指導したらいいのだろうか。」と、考える必要があります。子どもたちが持っている力をより生かして、ほかの教科でもつなげていけるといいですよ。

根本 「学びに向かう力」の「学び」の主体は子どもだから、「学びに向かう力」を先生が「指導する」、というより「支援する」に近いと思います。子どもに何かを「させる」のではなく、**子どもが主体で学べるような授業**を作りたいですよ。指導案に使役表現が入っていないか、いま一度見直す機会にしたいですね。

齊藤 学校だけでなく、家庭での学びにもつなげられたらいいですね。**生活科は、自立への道、生活の一部にしていくための教科**なんですから、終わったあとも自分の生活や家庭生活が豊かになっていいですね。



先生と子どもたちで
一緒に
授業を作るんです

次のページでは

動機付けや教科書の活用について考えます

動機付けの糸口を見つけよう



#動機付け #言語化 #多様性 #メタ認知

一人一人の興味や関心をみんなに広げる

齊藤 教室で授業していても、大学で指導法を教えていても、単元の導入を指導するのが一番難しいですね。

宮崎 本当に難しいです。単元が終わって次の単元に移るときの導入が自然でないと、子どもたちにとってはテレビのチャンネルが突然切り替わるように見えるでしょう。断片的な活動があるだけでストーリーが何もない、という状態に子どもたちが慣れてしまうと、次にもっとこうやりたいという思いや願いの広がりや、考え方の癖がつかないと思います。

根本 生活科は、「教科書の何ページを開きましょう。」という教科ではないですからね。

喜名 教科書を前から順番にやっていくという習慣が学校にはありますが、**教科書を行ったり来たりしながら学ぶ**ことも本当は必要ですよ。子どもが実際にやっていることですから、子どもの興味に任せるのも大切ですね。

根本 教科書を自由に見ている子どもを先生たちが見る、というのは動機付けのヒントになるかもしれないですね。「この子はこの学習内容に興味がありそうだな。」と、子どもの様子を見取ると、授業をするときに広げていきやすいと思います。

宮崎 子どもたちの興味や関心はそれぞれに違うから、好きなところから教科書を見ている子どもたちを見て、支援を考えたり、他者と関わる方向に子どもの興味を広げたりできるといいですよ。子どもたちが興味関心を持っている内容から、それを話しながら引き出せていけるといいと思います。それが他の子の動機付けにもなるんです。

気付きを言語化する

齊藤 大切にしたい気付きに**メタ認知**があります。メタ認知は、現在の自分の状態や目標、行為や結果について内省することですね。子ども自身が生活科の振り返りを言語化することで、活動の過程で自分なりに思考を整理し、自分のよさに気付いたり、課題を次の活動にフィードバックさせることによって、問題解決ができたりするようになるんです。それはほかの教科でも使える能力だと思います。**言語化して振り返る**ことによって、学習活動をより自立的にし、「**深い学び**」を実現する。そしてその先の行動の動機付けとしていきたいですね。

喜名 それは、先生が意識しないと子どもだけではできないですよ。初めは問題意識や考え方のすべてを子どもたちは持っていません。**思いを言語化したり共有したりして**、仲間との学びあいの中で学んでいくわけです。いかに**解決方法や知識の引き出しを作っていくか**ということが大切で、そこに何を入れ



るか、というのはこれから考えていけばいいんです。**そんな「学び方を学べる」のが生活科です。**「解決方法や知識の引き出しがどんなふうに行っているんだろう。」と、見ていくのがメタ認知だと思います。

根本 多様性はこれからの教育に大切な観点ですね。生活科は、多様性を身近に実感できる教科であると思います。

自分自身も多様性の一人だという 気づきにつなげる

喜名 多様性の一番の問題は、自分も多様性的一部分だと気付けないことだと思いますね。自分とそれ以外、ではなく、**自分もそれ以外のうちの一人だと自覚することがとても大切**なんです。こういうときに教科書は、そのきっかけになるのかもしれませんが。教科書の写真や絵を見ることで、疑似体験的にでも多様性に触れることができますよね。

齊藤 教科書のキャラクターに問われたり、逆に子どもたちが問いかけてたりして、子どもたちもはっと自覚するかもしれません。

宮崎 生活科の学習は身近な環境が学びの第一歩ですが、教科書には違う視点がたくさんあるから、**それが活動の幅や発想を広げる動機付け**にもなりますね。自分の地域では見聞きできないものやシーンを見られたり、先生が自分の経験を話すきっかけになったりします。

喜名 評価のむずかしさも、子どもから「引き出したい力」を意識すれば、子どもへの接し方が変わってくると思いますよ。

根本 ただ、教科書通りに場面を切り取って展開しようとする、うまくできなくなってしまう。

教科書をどう使うのかイメージするためにも、授業をつくる前によく読んでおくことが大切かもしれませんね。必要なページだけではなく、1年間の活動をイメージするために、全体を見ておくことをおすすめしたいです。

宮崎 生活科の教科書はプロセスが全部出ているわけじゃないから、授業のデザインを自由にできるんです。授業や学校生活を豊かにするきっかけは、教科書の中にたくさんあるんですよ。「うちのクラスの子ならこんなことに興味を持ちそうだな。」と、想像しながら、授業をコーディネートしていくときに、教科書を使ってもらえたらいいなと思いますね。

生活科のドラマを大切に

喜名 実際の授業には、教科書には書かれていないドラマがたくさんありますよね。それを大切にしたいですね。

根本 学級やその子だけの思いや願いのストーリーを持てるところが、生活科はいい教科だなと思います。

齊藤 子どもと一緒に教科書に書かれていないストーリーを組み立てていく。それが、頭から順番にやっていく他教科と違うところですね。

宮崎 いっそ、生活科の教科書は、「教科書」って名前じゃないほうがいいかもしれないですね(笑)。



学びのチカラで 人と社会を 未来へつなぐ



この冊子は教育出版のウェブサイトから、ダウンロードして印刷ができます

生活科のページにも、授業のヒントはたくさん！

困ったときに、ぜひ見てみてください！



「学びに向かう力」を引き出す生活科授業

2023年2月17日 発行

編集：教育出版株式会社生活科編集部

印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：伊東千尋

発行所：教育出版株式会社

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館

電話：03-5579-6278 (代表)

URL：<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0001 札幌市中央区北1条西7-1 プレスト1・7 2F TEL：011-231-3445 FAX：011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング 3F TEL：0138-51-0886 FAX：0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL：022-227-0391 FAX：022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL：052-262-0821 FAX：052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL：06-6261-9221 FAX：06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL：082-249-6033 FAX：082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL：089-943-7193 FAX：089-943-7134
九州支社	〒812-0023 福岡市博多区奈良屋町2-1 博多蔵本太田ビル 4F TEL：092-282-1150 FAX：092-282-1160
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F TEL：098-859-1411 FAX：098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則り、配付を許可されているものです。